第11回(昭和54年度)日本映画照明技術者協会
照 明 技 術 賞

劇映画部門	技術賞	**復讐するは我にあり**	担当　岩木保夫
ＣＦ部門	技術賞	**ニッカキングスランド**	担当　森澤淑明
非劇映画部門	技術賞	**ルーヴル美術館**	担当　下村一夫
ＴＶ映画部門	該当作品なし		
特撮映画部門	該当作品なし		

劇映画部門　技術賞「**復讐するは我にあり**」

本部会員　岩木保夫
昭和２年10月12日生

Ｓ．２　神戸に生まれる　21.9　大映京都撮影所　入社　28.7　社員技師となる　29.9　日活東京撮影所と契約　38.4　"にっぽん昆虫記"にて日本映画技術協会より照明賞受賞　46.4　"戦争と人間"にて日本映画照明技術者協会より照明賞受賞　46.6よりフリーとして現在に至る　現在、C. F. 及び映画("ええじゃないか" 8月クランクイン予定今村監督作品)等。

選定理由：**「復讐するは我にあり」の照明は、屋内、屋外等多種、特有な難かしい素材の作品であるのに対し、よく理解した照明設計に基づき、照明器材の選択、設定に充分なる配慮を施し、ハイキーにローキーにそして軟調と画面に変化をもたせ、リアル性を一貫とした配光技法は作品のモチーフを高揚し、劇的に盛り上げたことにより照明技術賞に値するものと認める。**

ＣＦ部門　技術賞「**ニッカ・キングスランド**」

東映支部　森澤淑明
昭和５年８月31日生

Ｓ23　大泉スタジオ入社（現東映東京）Ｓ29　第一回担当「あゝ洞爺丸」以後「警視庁物語り」シリーズ（Ｓ34ブルーリボン特別賞）「七つの弾丸」「陸軍残虐物語」「あれが港の灯だ」「暁の挑戦」Ｓ41　東映東京制作所に於けるテレビ映画「一匹狼」「刑事くん」「プレイガール」等を経て、Ｓ48　東映ＣＭに移り、現在に至る。Ｓ52　当協会ＣＦ部門技術賞（ポーラ化粧品ギャラントメン）受賞。

選定理由：瞬間的、短時間に商品を訴えるＣＦフィルムの本質の中で商品のもつイメージをくずさず格調高い印象をあたえた映像美は日頃の照明に対する感覚と技術の合意の成果であり、ここに照明技術賞として認める。

非劇映画部門　技術賞「**ルーヴル美術館**」

本部会員　下村一夫
大正10年１月１日生

Ｓ13　松竹大船照明助手として入る。Ｓ15　新興キネマ大泉撮影所へ転ず、「真人間」（演出伊奈精一氏撮影岡崎宏三氏）の照明担当　Ｓ16　兵役、Ｓ21　大映東京に復帰、Ｓ28　大映退社、Ｓ29　宝塚入社、Ｓ44　宝塚退社、現在フリー。主な作品（本号栄光の渡り鳥、下村一夫参照）。

選定理由：「ルーヴル美術館」の照明は、世界的国宝を被写体として、外国に於ける種々の制約のもとで綿密なる照明設計をたて、彫刻・絵画の特徴を彩光と色彩の忠実な表現により被写体を見事に写実的に再現させた技術は、近時稀に見る映像美である。よってその成果を照明技術賞と認める。

技術賞　総評

特別審査委員　堀川　弘通

映画照明には素人だが、映画製作全体ではくろうとである私が審査委員になるのはなんらかの意義があろうと思って引受けることにした。

小説が書けないからといって小説の鑑賞にさまたげになるということはない。小説も読者があって小説があるように、映画も鑑賞者があって成り立つのである。

私は審査の基準を以下の三つにしぼった。

1．作品の意図をよく理解して照明技術を駆使していること。(監督への理解)
2．全体をとおしてバランスがとれていること。(キャメラマンとの協同作業)
3．現場の条件をいかに工夫と努力で克服しているか。(経済的条件の制約)

私は、今年の候補作品はいずれも水準以上のものとみた。

劇映画部門では、「夜叉ヶ池」「悪魔が来りて笛を吹く」「配達されない三通の手紙」「太陽を盗んだ男」「復讐するは我にあり」「赫い髪の女」

以上6篇。

まず、**夜叉ヶ池** だが、こういう幻想的な作品は照明技術が作品全体の効果に大きなウエートを占めるものだ。私は第一にこの作品の監督技術について大きな疑問をもっているが、同様に照明についても大きな疑問が残る。とくに池の中の場面は全くいただけない。生々し過ぎるのである。酷評すれば、宝塚か、松竹少女歌劇の舞台を観ているようで、この点からまず圏外に落ちる。

次に **悪魔が来りて笛を吹く** だが、この無意味な存在感のない作品を、よく持ちこたえたのは照明技術が大いに貢献していると感じた。とくに雨中の照明は光っていると思った。

第三に **太陽を盗んだ男** だが、作品としては私は全くこの作品の価値を認めない一人だ。だが照明技術では工夫があると思った。最初の皇居前広場のロケ照明は緊迫感をよくだしていた。しかし原子力発電所の場面は、セットがチャチで照明技術では如何ともカバーしきれなかったのではないか、独立プロの資金力では、この程度なのか、また別の工夫をすべきだったのではないか。

第四に **復讐するは我にあり** だが、作品の意図への理解、作品全体のバランスがよくとれていること、この2点で他作品を抜いているものとみた。

第五に **配達されない三通の手紙** だが、近頃珍しい大セットで、庭園の一部もセットという豪華版だったが、照明は大変だったろうと思うが、破綻がないだけに特色もない、という点で損をしている。

第六に「赫い髪の女」だが、細かい照明に意欲的で私は好感をもったが、なにせ小品で、次の作品に期待したい。

以上6作品を観てきて照明技術賞に値いするのは、「復讐するは我にあり」と「悪魔が来りて笛を吹く」の2作品でこの2作品の中でも「復讐するは我にあり」が賞を受けるべきだと私は思ったが、果して審査員全員投票の結果、「復讐するは我にあり」に満票という結果が出たことは目出度い。

次に、非劇映画部門だが、候補作品の出品数が少なく問題なく

ルーヴル美術館 に決まった。

私の感想をいえば、原画の色調をよく再現していたこと、「モナリザの微笑」はとくに厳重なガラス張りの中の絵であるので、照明には苦心したことと推察される。

C.F.部門も出品が少なく
ニッカキングスランド登場篇
に票が集った。ウィスキーの色調がまことによく、飲んでみたいという欲望を覚えた。この他にも **白鶴、赤玉パンチ**もよく出来た照明だった。

以下、総評だが、いいものはいい、という当り前のことだが、結果がでたことはうれしい。近頃は価値感が多様化して、どれがいいか、皆バラバラで、例えば、これは照明技術ではないが、「太陽を盗んだ男」のような作品が「キネマ旬報」の2位になるという時代である。繰り返すが、照明技術に関しては、「いいものはいい」のである。

次は審査のやり方だが、点数方式だと一人の人が高い数字を出し、他の一人が低い数字を出すと算術平均で真中になるという結果になり、価値のある作品が賞から外される結果になるという、恐れがあるので、私は「A、B、C」、或いは「優、良、可」という方式をとり入れ、いきなり全作品を点数でだすということをせず、まず三段階に分ける投票をし、次に「A」または「優」の作品のみを採点によらず審査委員会で論議し、賞を決定する。どうしても論議が伯仲して決定出来ない時のみ決選投票することにしたらどうだろう、これは私見なので、協会の役員会で協議していただきたいと思う。また、非劇映画部門の出品が少ないのが残念だ。今度の賞を決めるに当っても、他にも優秀な作品が多数あるはずだと思った。御苦労でも多数出品がでるよう御努力を願いたいと思う。

第3回協会賞

渡辺　生　　下村一夫
原田由一　　赤松隆司

映画テレビ撮影用蓄電池販売

GSバッテリー　特約店

●ロケーション携帯用蓄電池　●携帯用軽量充電器　●各種電線機材一式

有限会社 和泉電装　代表者 松野　博

〒244　横浜市戸塚区中田町106
TEL 045(803)1911(代)

深谷店　横浜市戸塚区深谷町846
TEL 045 (852) 3264